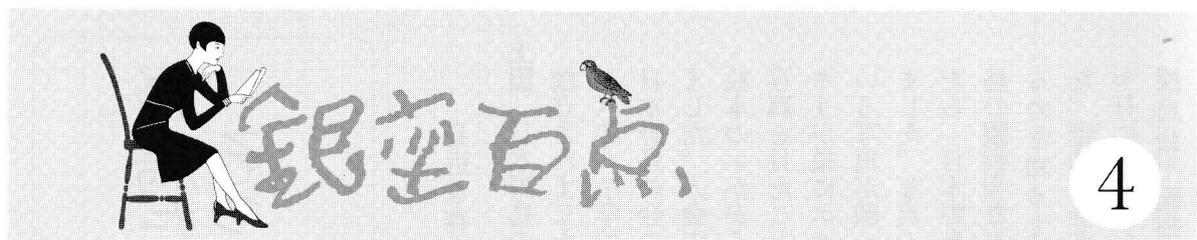




4 2024
NO.833



4

銀座百点 No. 833 目次

●巻頭座談会 上田恵介
野鳥たちを、そっと見守って おおたぐろまり 8

唐沢孝一

●今月のエッセイ

築地小劇場から百年 仲代達矢 22

私が銀座に行く理由 宇賀なつみ 28

銀座の空、銀座の桜 田家康 31

●カラー

ちいさな隣人たち おおたぐろまり 44

——ともに生きる鳥の家族——

●連載

あかねさす葡萄の酒を 檀ふみ 36

銀座の柳 野口孝一 40

森岡写真探偵団 森岡督行 52

銀座の夜のうた 小野寺史宜 56

銀座と音楽のマリアージュ 田中泰 62

わたしのとっておき 64

銀座らん月 【GINZA拝見】 42

ギャラリームサシ 【GINZA拝見】 50

MOVIE 27 BOOK 34 MUSIC 35

Topics 61 Stage 66 Gallery 69

わたしの銀座 70

銀座俳句(選) 高橋睦郎 86

●シリーズ銀座人特別編

トイレの今と未来を考える 加藤篤 72

齋藤充 齋藤主税

表紙・アートディレクション◎クラフト・エヴィング商会
題字◎佐野繁次郎

野鳥たちを、 そつと見守って

上田 恵介 （日本野鳥の会・会長）

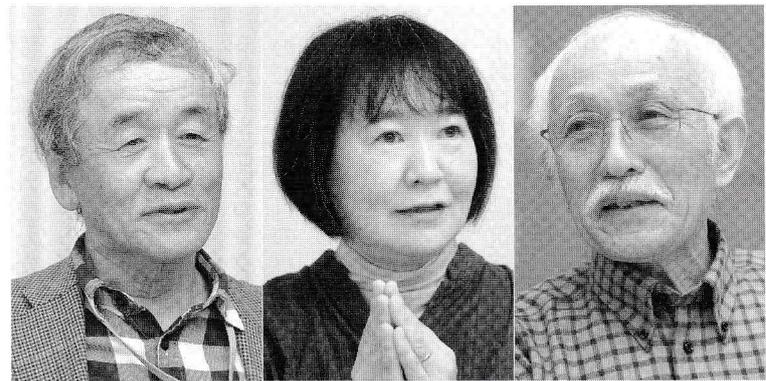
おおたぐろ まり （イラストレーター・絵本作家）

唐沢 孝一 （自然観察大学・顧問）

身近な存在

上田 日本野鳥の会は昭和九年に創立されました。わたしは昭和三八年、小学校六年生のときに日本野鳥の会の会員になりました。入会のきっかけは科学絵本の『かがくのとも』で鳥の写真を見たことです。オオヨシキリが巣にエサをくわえて来ている写真が載っていて、感動しました。写真のクレジットを見たら「日本野鳥の会」とあり、鳥の観察会などの活動をしているのを知って会員になりました。野鳥の会に入ってから二カ月に一回ぐらいで開催される探鳥会や観察会に、常に参加し、大阪南港の野鳥をまもる運

動などに関わっていました。大阪府立大学生の修士過程を終了したとき、信州大でホオジロの研究をしていた山岸哲先生が移ってこられて、新たに研究室ができるを知って大阪市立大学の大学院に進み、本格的に鳥の研究をはじめました。おたぐろ ネイチャー系のイラストや絵本を描いています。子どものころから生きものが好きで絵も好きでした。高校生のときに瑞牆山に行きテント泊をしたとき、朝にいろんな鳥が鳴く鳥の声のシャワーで目が覚めたのです。先生に、「なんの鳥が鳴いているのですか」と聞いてもご存知ない。どうしてもその鳥の名前を知りたいなと思いま



（上田恵介さん）

（おおたぐろ まりさん）

（唐沢孝一さん）

した。そんな気持ちから、短大の生物の先生が野鳥の話をして「鳥の鳴き声のテープが研究室にあるよ」と話されたのを聞き、研究室に出入りするようになりました。あるとき『鳥暦花便』という画集を見たんです。岡崎立さんと松岡真澄さんの描いた絵がすばらしく、神田の美学校・細密画教場を出たと知

り、さつそくそこで絵を習い始めました。すると「描くのが速いね。速いと仕事の依頼が多くあるよ」ということをいわれて、よし！ と（笑）、学校から仕事を紹介していただいたのが鳥の絵を描くきっかけです。学校からの紹介の続きで、牧野富太郎博士の『原色牧野植物大図鑑』の改訂版の色塗り仕事もしました。

唐沢 群馬県の嬭恋村で生まれ育ちました。子どものころの遊びと言えば、昆虫や鳥を捕まえること。ホオジロをワナで捕らえて飼ったこともあります。初めて野鳥の研究したのは中学二年生でした。全国の小中学校で「巣箱を利用した野鳥の研究コンクール」があり、裏山に巣箱をかけ、シジュウカラの生態を調べて応募したら、運よく文部大臣賞を受賞しました。戦後の日本は台風による洪水被害が深刻でした。山の木が伐採されハゲ山になったからです。そこでGHQのオースチン博士の勧告があり、治山治水対策として植

樹が奨励されました。樹木を昆虫による被害から守るには野鳥の保護も大切です。文部省が中心になり、野鳥保護の普及が図られました。その一つが巣箱を利用した研究コンクールだったのです。五月のバードウィーク（愛鳥週間）の設定もこうした背景がありました。わたしが育った時代が、野鳥との出会いにつながりました。その後、東京教育大学（現筑波大学）理学部で動物学を学び、都立高校の生物の教師になりました。たまにたま下町の学校に勤務したとき、都会の鳥に出合い、都市鳥研究会を立ちあげました。仲間たちと、ツバメやカラスの生態を調査研究しています。

鳥は聞くもの

上田 日本にはいろんな野鳥がいて、なかには色あざやかな野鳥もいますが、わたしは「美人」には興味がなく（笑）、スズメなどの身近な鳥が好きです。それとミソサザイという茶色の鳥は、短い尻尾をピンと立てて一

五秒ぐらいピピピピピーって、森の中ですごい大きな声で鳴く。山でミソサザイに会うとうれしいですね。

唐沢 鳴き声がすばらしいですね。小さくて目立たない鳥ですが、声は派手です（笑）。

上田 冬でもウグイスの地鳴きみたいなの、チャツチャという甲高い声が聞こえたら、そこにミソサザイがいるなってわかりやすい。

おおたぐろ ミソサザイは声でだいたいわかりますよね。姿はなかなか見つからない。

上田 野鳥は基本的に、声で探すもの。姿を見ようと思ってもなかなか難しい。オオルリもキビタキもきれいだけど、だいたい葉っぱの後ろに隠れていますし。でも、やっぱり見たい！

おおたぐろ 声も魅力的で、今の家に入ったときお風呂に入っていたら、フクロウの鳴き声が聞こえて、とても興奮しました。茨城では意外と身近にいて、自宅近所の神社にある大きなご神木の洞や観察の森にか

けられた巣箱などで繁殖しています。ボランティアの人が見守る巣箱から巣立ったヒナをみるのが楽しみです。

上田 わたしが住んでいる住宅地のまわりの雑木林にも、フクロウがいますよ。いい居場所を見つけたようです。

おおたぐろ 見るとうれしくて幸せになりますよね。森に入っただけで突然出くわすと、なんでも知っているような二つの目で、「なにをしに来た？」と問われているみたいでドキドキします。

唐沢 最初に研究した鳥がシジュウカラなので、今も一目置いています。それと好きといえばコスタリカの鳥、ケツァール。忘れられない鳥です。

れられない鳥です。コスタリカには何回か行っているのですが、地球上にこんな美しい鳥がいるのかとびっくりしました。美しいがゆえに、昔は捕られて飾りものにされていましたが、今はワシントン条約によって保護されています。

上田 わざわざコスタリカまで見に行く価値がある鳥ですよ。日本に目を戻すと、昔は見なかつた野鳥が見られるようになりましたね。とくに都市圏は。

おおたぐろ うちの近所にベニマシコが出たときは、遠くから見た来た人が大勢いました。なんでも白いベニマシコだそうで、それを見るためだけに岡山から来た人もいて、驚きました（笑）。



西洋料理

南蛮
銀圓亭

銀座・並木通り5丁目
カリオカビル7F
03(3573)1991

唐沢 葛飾区の水元公

園にリュウキュウサンショウクイがこの冬ずっと居ついていてたんです。沖縄や奄美に行けばいくらでもいますが、都会では滅多にあえません。たくさんの人が見に来ていまして、中には、「名古屋から東京まで今朝出てきました」という人もいました。今は情報があふれていますからね。

上田 人間も鳥並みに移動している(笑)。リュウキュウサンショウクイは二、三年前から急に増えました。サンショウクイは夏鳥ですが、リュウキュウサンショウクイは十二月から三月ごろまで鳴いています。

唐沢 今、東京湾にはカラフルなミヤコドリの大群が見られますが、昔はいませんでした。昔は一羽でもいると聞いたら、勤めを休んでも見に行きたくなるような鳥でした。

おたぐろ オイスターキャツ

創業 寛政四年

仏壇具珠香
仏念線

安田松慶堂

銀座7-14-3
(新橋演舞場そば)
03-3542-5771

チャー”といわれている鳥ですね。数が多いというのは、それだけエサが豊富なのですね。

上田 二枚貝が好きで、隙間にびつとくちばしを差し込んで食べるんです。昔は珍鳥中の珍鳥でした。

唐沢 今、船橋の三番瀬では一年中見られます。

上田 臨海部は昔、羽田空港近くの干潟でシギやチドリが山ほど来た時代がありました。今はあまり見かけません。東京で見られる野鳥が、ほんとうに変わりましたね。

野鳥は都市が好き

唐沢 都市で見られる鳥は、ここ数年でさらに大きく変わりました。

た。ビルの建て替えが影響しているのでしょうね。昔は少しルーズなところがあったけど、ビルにも隙間がありました。それが鳥の営巣にとっては好都合だったのです。今は空調を効かせるために隙間が塞がれているため、シジュウカラやムクドリなどが巣作りをしづらくなりました。

上田 スズメも住宅難により、減っています。都会のビルもですが、郊外もコナラとか、クヌギの木がある里山は人が手入れしなくなり荒れているようで、夏鳥たちが営巣できる環境が減ってしまいました。

おたぐろ 里山など人や植物、そして鳥などが有機的につながった場所は、ほんとうに少なくなっています。わたしがよく行く筑波の近くの、広大な森林と大きな池があります。その池は護岸がほとんどできてない自然な水辺で、近くには田んぼがあったのですが、後継者がいないのか耕作放棄になってしまいました。毎年サシバ

が来て営巣していたのですが、田んぼに水が入らなくなり、エサとなるカエルも、ヘビもいなくなる。そうしたらサシバがこなくなりました。そこで有志の市民の会が田んぼを借りて耕作を始めました。そして農家の方が生産したお米を高く買い上げる制度も整備して、徐々に田んぼを復活させました。するとサシバがまたくるようになったのです。再び共生できるようになって、よかったです。

上田 里山も田んぼも人の手が入

日本一の技術を目指す

きもの着付教室
(初心者対象 2ヶ月全8回)

無料受講券プレゼント
すべて手結びで行います。

4月・5月・6月生募集中

4/8(月)開講 月曜コース
5/17(金)開講 木曜コース
6/19(水)開講 水曜コース

彩きもの学院 銀座校

0120-073-005

PC・モバイルサイトからもお申し込みいただけます

彩きもの 検索

ることで、環境を整えていたの
で適切に人の手が入ることは大
事ですね。地域で里山を守る活
動をしている人たちもいます
が、全国から見ると微々たるも
のです。こういう活動が増える
といいですね。

唐沢 おおたぐろ 人間が里山を使って
生活してきたことが生きものた
ちの利益と合致して、おたぐろ
の営みが続いていくことを知っ
たときには感動しました。人間
の生活というのは、だいたい生
きものにはマイナスだと思っ
ていたの。

唐沢 野鳥と人とは、昔は距離が
あった。人を見ただけで逃げて
いくような。今はどんどん近づ
いてきて、手の上にスズメが乗
ってエサをつついたりもしてい
ます。いいことなのか、悪いこ
となのか……(笑)。

上田 昔はカラスもスズメも人に
絶対近寄ってきませんでしたよ
ね。もう三〇メートルぐらい向
こうから逃げていく感じではし
た。昔は欧米などの公園ではス
ズメがすぐ近くまで寄ってき

て、ヨーロッパは愛鳥の精神が
高い、日本はまだまだ遅れてい
るなどといった感じでしたね。

唐沢 今は日本もヨーロッパもだ
いたい同じでしょう。

上田 一緒ですね。自然が大事だ
という考え方が浸透してきて、
生きものもみんな共生して生き
ていかなければという意識を持
つようになった。隣人みたいな
感じで、一緒に住んでいる生き
ものという感覚です。都会の人
間と野鳥との関係も同じだと思
います。

唐沢 都市の鳥について面白い調
査があります。都市鳥研究会で
は東京駅中心に約三キロ四方の
ツバメについて調べてきまし
た。一九八五年には営巣するピ
ルが四十四カ所ありました。今
は二十カ所以下。銀座では三カ
所です。そんな中であるビルは
去年の七月で改築したのです
が、ツバメが巣立つまで工事を
待ってくれました。オーナーが
ツバメを大事にしてくれたので
す。

上田 ツバメは昔から大事にされ

てきましたね。日本は稲作文化
だから害虫をとってくれる益鳥
だった。

唐沢 おおたぐろ 銀座にはカラスもた
くさんいたんじゃないですか。
カラスっておもしろいですよ
ね。

唐沢 都市鳥研究会では、一九八
五年から五年ごとに東京都心の
カラスの羽数を調べてきまし
た。最初は約六千羽でしたが二
〇〇〇年には約二万羽に急増。

その後は一気に減り、二〇二一
年には三千羽を切りました。バ
ブル経済の「飽食の時代」に
は、棄てられた食べものが朝の
路上にあふれカラスが群がって
いたんです。その後、不況やコ
ロナ禍で生ゴミが減りました。

生ゴミをおおうカラスネットも
普及し、その結果カラスは減少
しました。カラスを見ると、そ
の時々々の経済や時代の変化がよ
くわかります。また、都会に進
出してきた野鳥も興味深いで
す。昔はヒヨドリやキジバトは
いませんでしたが、下町の高校
に勤めていたころ、校内で繁殖
を始めました。ハクセキレイや
コゲラも都市に進出し繁殖する
ようになりました。

上田 あんな鳥が都市に入ってく
ると思わなかったですね。

唐沢 野鳥が都市に進出し、人馴
れしたことで、習性も変化して
います。海岸の岩場で繁殖して
いたイソヒヨドリが、銀座のピ
ル街でも繁殖するようになりま

SINCE 1912



人とオフィスは
どこまで高め合って
行けるのだろう。

 株式会社 **文祥堂**

みなさまの働く環境を
心地よく、快適に。
私たちがお手伝いいたします。



<https://www.bunshodo.co.jp>

した。都心は冬でも暖かく、安全で食物も多い。都心のほうがずっと住みやすいんです。オオタカ、ハヤブサ、ツミなどの猛禽まで入ってきています。ハヤブサは岩場のテラスなどで繁殖している鳥です。都心の高層ビルは、ハヤブサにとっては岩場に見えるのかもしれませんが。

上田 ニューヨークでも、ビル街でハヤブサが繁殖していますね。

唐沢 ハヤブサ基金があり、ハヤブサのための営巣場所をビルに用意してあります。ハヤブサのいる街というのがニューヨークの誇りであり、一つの象徴になっています。

上田 野鳥は、人間さえ怖くなければ、都会でも暮らしていけるのですね。

唐沢 今では郊外に見に行くより都会にいるほうが多様な鳥をじっくり見ることが出来ます。もちろん、広い郊外で見つけにくい野鳥を探すのも悪くないです(笑)。

おおたぐろ 郊外は森林もいっぱい

いあるので野鳥が散ってしまっただけです。都市はぎゅっと公園に集中するからじつは見やすい、なるほど!

上田 野鳥を観察するときは、さり気なく見ることが大事ですね。人間、ヒョウやトラ、ライオンもみんな目が前にあるでしょう。一方、シマウマや牛、羊など草食動物は目が横です。前にある目で見られるのは鳥にとっては、フクロウなどの猛禽や肉食動物に狙われると感じるのです。お友だちになりたいとは思ってもらえず、警戒しちゃう。スズメだって、ヒヨドリだって、目が横についているから三六〇度見えるので、注意深く見えています。

おおたぐろ 見ないフリして見るテクニクが野鳥観察では重要ですよ(笑)。鳥を怖がらせちゃいけない。

上田 野鳥のほうが人間の五、六倍視力がいいから、人間が見つけたときは、野鳥のほうが先に人間を見つけています。

唐沢 実は野鳥のほうこそ人間を

観察している。マンウオッチングをしていますね(笑)。
いる。そういうシーンを見ると本当に近くに感じます。

上田 スズメは、見つめずにそばを通っても全然気にしないけど、ちよつと立ち止まって視線を向けるとぱつと飛びますよ。彼らのほうに目が向いているから。

おおたぐろ わたしの場合、観察というより隣人みたいな気持ちで野鳥たちに接している感覚です。彼らが食べる、寝る、恋をする、子育てをする。そういうシーンを意識して見ていると

親近感がわくし、愛を感じます。近くにモズがいますが、今は恋の季節でよく歌っています。オスが求愛の気持をこめて、メスに一生懸命歌いかけて

おおたぐろ いろいろ意味で平等で、そつと見守り、ともに暮らす。そういう知識こそ、これからの世の中には必要なんだと思います。

上田 動物や鳥の見方、それに適切なふれあい方は子どものころに教えないといけないと思っすね。

唐沢 大切なことは、野の鳥は野の鳥として、擬人化せずにつき合うことだと思いますね。ペットとはちがいますので。どんな鳥や虫、植物にも野生生物としての魅力がある。そのことを知ってほしいと思ひ、自然観察大

学を設立しました。

BOOK 今月のベスト10

- 1 **BLANK PAGE**
空っぽを満たす旅
内田也哉子 文藝春秋 1760円
- 2 **世界はラテン語でできている**
ラテン語さん SBクリエイティブ 990円
- 3 **ケアの倫理**
一フェミニズムの政治思想
岡野八代 岩波書店 1364円
- 4 **八月の御所グラウンド**
万城目学 文藝春秋 1760円
- 5 **話す力**
心をつかむ44のヒント
阿川佐和子 文藝春秋 990円
- 6 **木梨憲武自伝**
みなさんのおかげです
木梨憲武 小学館 2200円
- 7 **シャーロック・ホームズの凱旋**
森見登美彦 中央公論新社 1980円
- 8 **宗教と不条理**
信仰心はなぜ暴走するのか
佐藤優、本村凌二 幻冬舎 1056円
- 9 **成瀬は天下を取りにい**
宮島未奈 新潮社 1705円
- 10 **東京都同情塔**
九段理江 新潮社 1870円

(※価格は税込価格 教文館 2月1日~29日)